

# 文化財を 伝える

## 展示技術と 保存修復学

2017年1月29日 [日] 13:00~16:35

会場：東京文化財研究所 地下講堂

主催：文化財保存修復学会

後援：国宝修理装演師連盟、日本文化財科学会、文化庁、読売新聞社

博物館施設は収集、保管した文化財の展示を行ない、文化財を通して来館者と対話する役割を担うという使命を持っています。この使命を果たすために、学芸員はキュレーションを行ない、それを支えるのが展示技術です。展示技術には展示によって文化財の劣化が進むのを予防するために、文化財周囲の展示環境を安全に管理する環境保存技術と、展示を安全に成立させるために文化財の保存状態を診断し、必要に応じて処置を施すための保存修復技術が含まれます。これらの技術は来館者が展示物だけに集中できる空間の構成を目的としたものであるため、通常は意識的に見ることはありません。本シンポジウムでは、こうした技術を生み出す学問的理論を考えていきたいと思ひます。

### 2016 年度文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員会

実行委員長 三浦定俊

副実行委員長 本田光子

実行委員 秋山純子・荒井経・岡岩太郎・岡田靖・中村晋也  
日高真吾・藤澤明・吉田直人・和田浩

事務局 NPO 法人 Knit-K (代表：西岡圭司)



平成 28 年度科学研究費補助金 (研究成果公開促進費)「研究成果公開発表」



お問い合わせ先：bunkazai2016@knit-k.com [NPO 法人 Knit-K]

## プログラム

12:00 開場

13:00-13:05 開会のご挨拶 三浦定俊

### 13:05-13:45 第1部

特別講演「展示施設の諸要件」

佐野千絵 (東京文化財研究所)

長年にわたり博物館施設環境調査を実施した立場から、展示施設として整えておくことが望ましい諸要件、展示環境に関する基準、今後展示施設を改修や新設する際の注意項目などについてお話しします。

### 13:55-15:15 第2部

専門家による講演「展示技術を支える保存修復学」

13:55-14:15 「展示に用いる素材の選択」

吉田直人 (東京文化財研究所)

展示で文化財の周囲に用いる多様な素材の評価と選択基準についてお話しします。

14:15-14:35 「展示手法に応じた修理」

土屋裕子 (東京国立博物館)

展示と恒久的保存の両立を実現するための修理についてお話しします。

14:35-14:55 「展示を支える体制作り」

西澤昌樹 (国立民族学博物館)

露出展示を実現するために、博物館全体で取り組む体制についてお話しします。

14:55-15:15 「博物館における展示環境の構築・管理について」

間淵創 (三重県総合博物館)

さまざまな展示演出への対応と、文化財の安全を確保するための考え方についてお話しします。

### 15:30-16:30 第3部

総合討議「文化財の活用と制約」

パネリスト：佐野千絵・吉田直人・土屋裕子・西澤昌樹・間淵創

司会：和田浩 (東京国立博物館)

文化財を介した文化交流は、これから一層活発化すると予想されます。これからは、保存のために公開を制限するのではなく、公開のために積極的な保存をおこなう視点も必要とされます。「活用と制限の適正なバランスをどのように考えるのか。」「展示活用という目的を達成するために、現在の保存修復学はどのような役割を果たせるのか。」「パネルディスカッションでは、こうした幾つかの論点において保存修復学が取り組むべき課題を抽出し、議論を深めていきます。

16:30-16:35 閉会のご挨拶 本田光子

## プロフィール



佐野 千絵

東京文化財研究所文化財情報資料部長

東京大学大学院理学系研究科博士課程(化学専攻)修了。博士(理学)。1989年より東京文化財研究所に所属。博物館等の収蔵・展示環境、特に内装材料からの化学物質汚染の文化財への影響、発生メカニズム、低減対策の研究および博物館等の保存環境助言をおこなっている。現在は、図書、公文書、種々フィルム類、電子データ類の保存環境について精力的に研究を進めている。



吉田 直人

東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長

北海道大学大学院理学研究科(化学専攻)博士後期課程修了。博士(理学)。同大学電子科学研究所研究員を経て、2003年より東京文化財研究所に所属。主に屋内における文化財、資料保存環境の調査研究に従事するとともに、これに関する全国の保存施設への助言、また研修会等による普及活動をおこなっている。



土屋 裕子

東京国立博物館学芸研究部保存修復課保存修復室長

多摩美術大学絵画科(油画専攻)卒業後、スペイン国立マドリドコンプルテンセ大学、東京藝術大学大学院で油画保存修復技術を専攻。その後、再びマドリドの国立文化財修復研究所でインターンを経て、1999年より東京国立博物館に所属。収蔵品の全体の修理に関わるマネジメントのほか、津波による被災カンバス画の脱塩方法の研究などを主な業務として活動している。



西澤 昌樹

国立民族学博物館企画課標本資料係係長

立命館大学文学部西洋史学専攻卒業。2013年より国立民族学博物館所属。主に標本資料および資料情報の管理、整理や、収蔵庫・展示場環境の管理業務に従事している。



間淵 創

三重県総合博物館展示・資料情報課学芸員

東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了後、東京文化財研究所客員研究員、東京芸術大学助手などを経て2011年より現職。博士(文化財)。保存環境の計測と制御を専門とし、収蔵・展示環境管理のほか、展覧会担当として企画・展示設営にも携わる。

申し込み  
方法

下記、E-mailもしくはFAXにて必要事項記入のうえお申し込みください。

E-mail: bunkazai2016@knit-k.com

FAX: 075-320-2658 (NPO法人 Knit-K 西岡宛)

申し込み時  
必要事項

・氏名(ふりがな)

・連絡先住所(勤務先・自宅)

・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス

・所属(勤務先もしくは学校名)

※参加申し込みにてご提供いただきました個人情報は、本シンポジウムの受付と統計・分析および関連イベントのご案内以外には使用いたしません。

## FAX申し込み書 [075-320-2658]

氏名(ふりがな)

連絡先住所 [ 勤務先 ・ 自宅 ] 〒

電話番号

FAX番号

E-mailアドレス

@

所属(勤務先もしくは学校名)